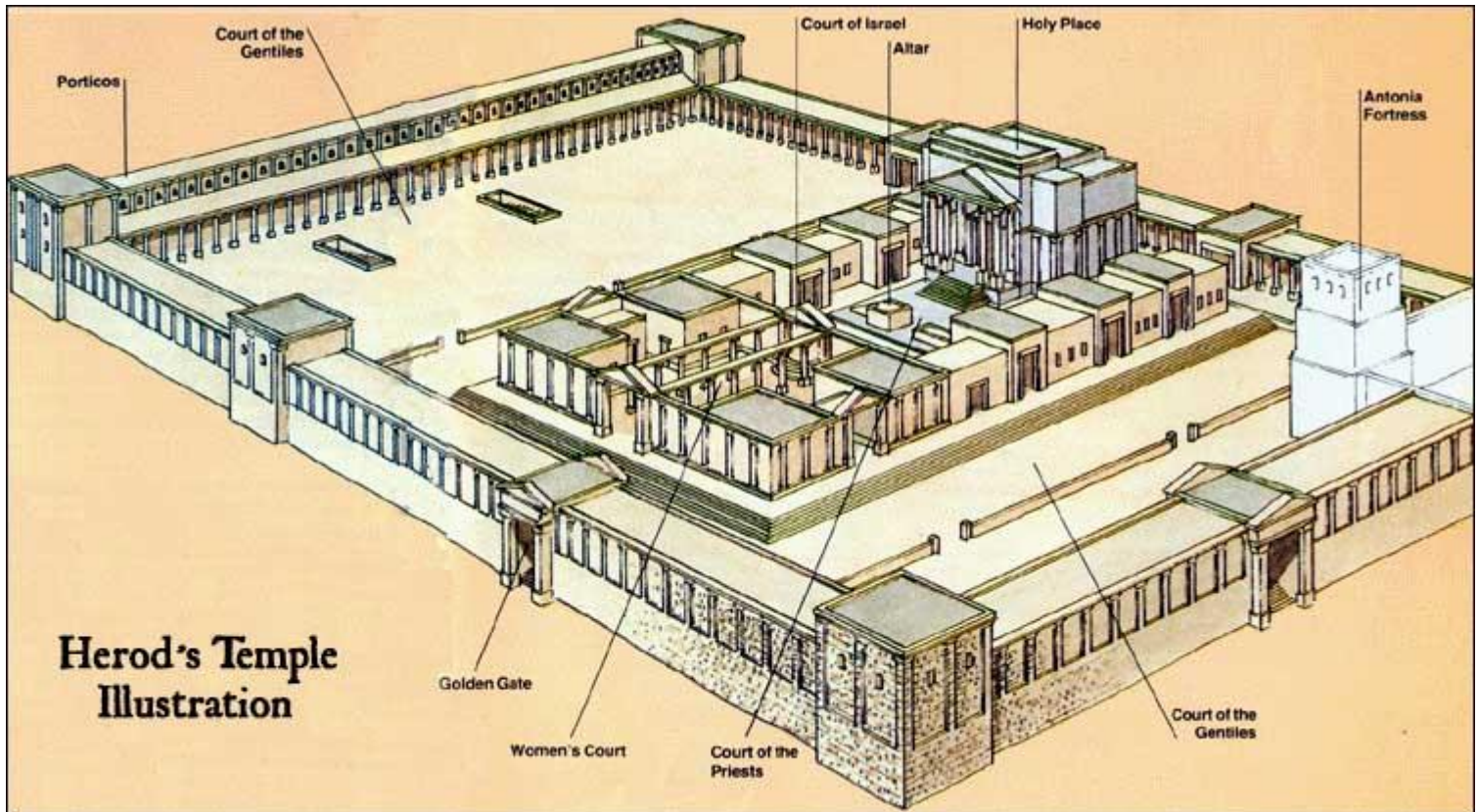


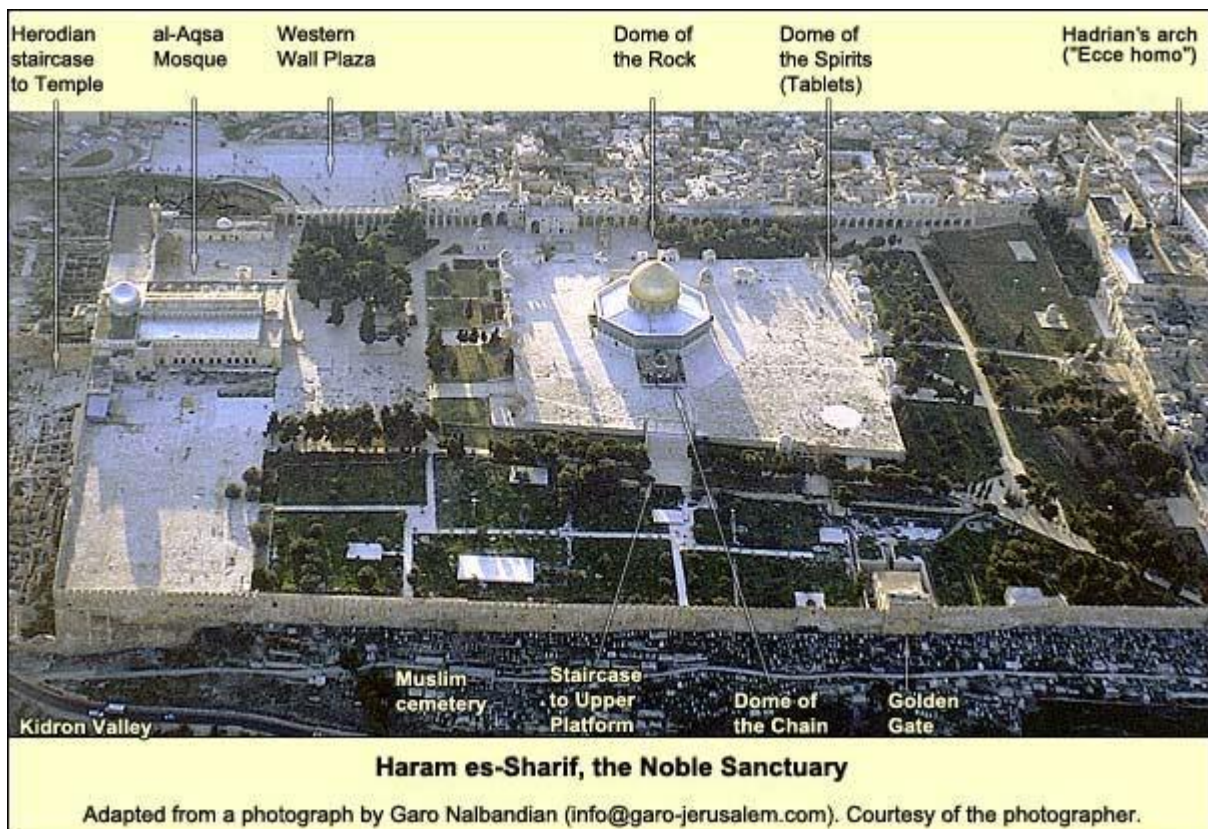
## 黙示録11章：二人の証人

### 1-3節：踏みにじられる聖所

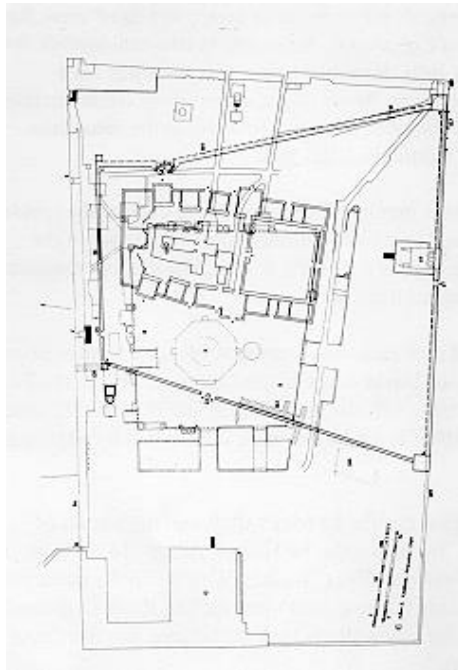
ヘロデ時代(イエス様の時代)の聖所



現在



可能性 「聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ・・・」



「42ヶ月」「1260日」：当時のバビロン暦によると、一年=360日。したがって「**三年半**」

→ ここから、私たちはイエス様も語られた「ダニエルの預言」を理解しなければいけない。

「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。）」（マタイ 24:15）」

## ダニエル書

ソロモンの死後、イスラエルが北と南に分裂した。北イスラエルは紀元前 722 年にアッシリヤによって滅び、南ユダは 586 年エルサレムが滅び、バビロンに捕え移されていた。

ダニエルはずっと、バビロンの王に仕えていたが紀元前 539 年にメディア・ペルシヤがバビロンを滅ぼす。その後メディアとペルシヤの王に仕える。その時、彼はエレミヤの預言「捕囚は 70 年である」ことを読み、帰還が近づいていることを知り、祈り始める。イスラエルの民と聖所のために祈った。

その祈りへの答えを、天使ガブリエルが伝えに来る。→ ダニエル9章 24-27 節

「あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現われる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

「70週」 = 70×7年 → 490年

「引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令」： 紀元前445年3月14日（ネヘミヤ2:1）



「62週・・・7週」： 69週(483年)の後に、油注がれた者(メシヤ)が断たれる。

ちょうど 483 年後、紀元32年4月6日にイエス様がエルサレムに入城された(マタイ 21 章等)。

「その後」

「洪水」： 軍隊の波のこと。

「終わりまで戦い」

「荒廃が定められている」

→ 紀元 70 年に、ローマによってエルサレムが破壊。その後、エルサレムは荒廃した。

「人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。(ルカ 21:24)」

「彼」： 復興ローマの君主

「一週」： これがダニエルの第七十週。最後の七年間。

「多くの者と契約を結び」： 多くのユダヤ人

「半週の間」： つまり後半の三年半

「いけにえとささげ物をやめさせる」： 契約により神殿再建を許すが、三年半後にやめさせる。

→ イエス様「あの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つ」

使徒パウロ「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。(2テサロニケ 2:4)」

他のダニエル書には、「ひと時とふた時と半時」とある。(ダニエル 7:25,12:7)

ここ黙示録 11 章 2-3 節は、七年間の前半部分の三年半のこと。

#### 4-6節：二人の証人の活動

「荒布(3節)」： 悲しみや嘆き、悔い改めをするときに身に着ける。

→ 悔い改めを呼びかける預言者

「二本のオリーブの木、また二つの燭台である」： ゼカリヤ書4章の幻  
ゼカリヤ書

バビロンが滅びペルシヤ時代に入った時、ユダヤ人がエルサレムに帰還した。そこは廃墟で、そこから神殿を再建しなければいけなかった。工事ははかどらず、しかも周囲の住民が断固反対した。ついに、工事は中断した。

その時に、ゼカリヤとハガイが預言した。その後、工事を再開。紀元前 516 年(ちょうど破壊されてから 70 年後)、神殿が再建される。

この工事を指揮する、ユダヤ人の指導者二人、総督ゼルバベルと大祭司ヨシュアへ主が励ましの幻を八つ与えられる。その中の一つ。

私と話していた御使いが戻って来て、私を呼びさましたので、私は眠りからさまされた人のようにであった。彼は私に言った。「あなたは何を見ているのか。」そこで私は答えた。「私が見ますと、全体が金でできている一つの燭台があります。その上部には、鉢があり、その鉢の上には七つのともしび皿があり、この上部にあるともしび皿には、それぞれ七つの管がついています。また、そのそばには二本のオリーブの木があり、一本はこの鉢の右に、他の一本はその左にあります。」さらに私は、私と話して

いた御使いにこう言った。「主よ。これらは何ですか。」私と話していた御使いが答えて言った。「あなたは、これらが何か知らないのか。」私は言った。「主よ。知りません。」すると彼は、私に答えてこう言った。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって。』と万軍の主は仰せられる。大いなる山よ。おまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地となれ。彼は、『恵みあれ。これに恵みあれ。』と叫びながら、かしら石を運び出そう。」ついで私に次のような主のことばがあった。「ゼルバベルの手が、この宮の礎を据えた。彼の手が、それを完成する。このとき、あなたは、万軍の主が私をあなたがたに遣わされたことを知ろう。だれが、その日を小さな事としてさげすんだのか。これらは、ゼルバベルの手にある下げ振りを見て喜ぼう。これらの七つは、全地を行き巡る主の目である。」私はまた、彼に尋ねて言った。「燭台の右左にある、この二本のオリーブの木は何ですか。」私は再び尋ねて言った。「二本の金の管によって油をそそぎ出すこのオリーブの二本の枝は何ですか。」すると彼は、私にこう言った。「あなたは、これらが何か知らないのか。」私は言った。「主よ。知りません。」彼は言った。「これらは、全地の主のそばに立つ、ふたりの油そそがれた者だ。」

→ 終わりの時に、再臨の主が神殿を再び建てられる。けれども、その前に反キリストによって建てられる。この偽りの神殿と、また世界が信じている偽りの平和について、その間違いを示す働きをするのが、この二人の証人。

オリーブの木からの油は聖霊を表しており、聖霊の力で行なっていることを意味している。

この二人は、エリヤとモーセに似ている。この二人かもしれない。

「火が彼らの口から出て」： エリヤは火を降らせた(2列王1章)。

「雨が降らないように天を閉じる」： 悪王アハブに対して三年半雨が降らないと宣言した(1列王17:1)

「水を血に変え」： モーセがナイル川を血に変えた。

イエス様が高い山に登られたとき、エリヤとモーセと主は話しておられた。「祈っておられると、御顔の様子が変わり、御衣は白く光り輝いた。しかも、ふたりの人がイエスと話し合っているではないか。それはモーセとエリヤであって、栄光のうちに現われて、イエスがエルサレムで遂げようとしておられるご最期についていっしょに話していたのである。(ルカ 9:29-31)」

特に、エリヤは終わりの時に現れることが預言されている。「見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」(マラキ 4:5-6)」

### 7-10節：二人の証人の死

「証しを終えると」： 神のお仕事をしている間は、彼らは決して滅ぼされなかった。けれどもすべての仕事を終えたら、殺された。

→ 神は私たちを守ってくださる。その時が終われば、私たちは続けて行なう必要はない。

「底知れぬ所から上ってくる獣」： 9章で、底知れぬ所から悪魔が出てきたことを学んだ。同じところから反キリストが上ってくる。「その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、竜(悪魔)を拝んだ。(黙示 13:3)」

「霊的な理解ではソドムやエジプト」： エルサレムが道徳的に退廃している。だからこの神殿もみな嘘。

「彼らの死体をながめていて」：全世界が、反キリストが与える偽りの平和を喜ぶ。それを間違いだと指摘する二人の証人が、ものすごく憎らしい。それで、死体をそのままにしておいて、みながそれを眺め、クリスマスのようにお祝いし、贈り物も交換する。

どうやって、全ての人が見るの？ → 今なら、生中継やインターネットで可能！

### 11-13節：昇天する二人の証人

主が死んで、よみがえり、昇天されたのと同じように、この僕もよみがえり、天に昇った。

「天の神をあがめた」：14万4千人だけでなく、エルサレムの住民の残された者も神に立ち返った。

### 14-19節：この世の国は神とキリストのもの

「第二のわざわい」：二億人の軍隊の災い（だから10-11章は挿入部分）

「第七のラッパ」：

「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった」

「まことに神は全地の王。巧みな歌でほめ歌を歌え。神は国々を統べ治めておられる。神はその聖なる王座に着いておられる。(詩篇 47:7-8)」

「二十四人の長老」：4-5章、7章に出てきた長老。主の御座のところでひれ伏している。

「諸国の民は怒りました」：諸国の民は、神の真理を憎んでいる。

「それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。(2テサロニケ 2:11-12)」

「なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者と共に逆らう。『さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。』(詩篇 2:1-3)」

「報い」：信者にはすばらしい報いが用意されている。

「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』(マタイ 25:21)」

「神殿の中に、契約の箱が見えた」：神ご自身が、直接、その聖なる輝きで地を滅ぼされる。